

会 議 議 事 録

			記録者		関ヶ原 功
供 覧	部長	課長	課長補佐	係長	課員
件 名	第 5 回龍ヶ崎市最上位計画策定審議会				
年月日	平成 28 年 7 月 12 日 (火)				
時 間	午後 4 時 00 分～午後 5 時 20 分				
場 所	龍ヶ崎市役所 5 階第 1 委員会室				
出席者	<最上位計画策定審議会委員> 苦瀬会長 大山副会長 谷口委員 前田委員 (代理:久保田氏) 田賀委員 福智委員 副島委員 本多委員 (代理:穴田氏) 石崎委員 大熊委員 石引委員 山崎委員 【欠席】 膳法委員 <龍ヶ崎市> 中山市長 川村副市長 <事務局> 企画課: 宮川課長 大貫課長補佐 記録者				
	1 開 会 2 市長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議 題 (1) (仮称) 第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン (案) について 5 閉 会				
情報公開	<input type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非 公 開	非公開 (一部非公開を含む) とする理由		(龍ヶ崎市情報公開条例第 9 条 号該当)	
		公開が可能となる時期 (可能な範囲で記入)			

発言者	発言の内容
事務局	<p>それでは定刻を若干過ぎてしまいました。ただいまから第5回龍ヶ崎市最上位計画策定審議会を開会いたします。</p> <p>本日の審議会は、委員定数13名のところ、現在、11名の出席でございます。過半数の出席をされておりますので、本会議は成立していることを御報告いたします。</p> <p>また、本日は前田委員の代理という形で、茨城県地域計画課の久保田様、それから、本多委員の代理で関東鉄道株式会社の穴田様が御出席をされておりますので、お知らせをいたします。</p> <p>また、この審議会は附属機関の会議の公開に関する条例に基づきまして公開となっておりますけれども、本日は傍聴人はございませんので、報告をいたします。</p> <p>それでは、開会に先立ちまして、中山市長より御挨拶を申し上げます。</p>
中山市長	<p>皆さん改めましてこんにちは。</p> <p>ちょうどここに来る直前に千葉県の子孫市長から急な電話が入りまして、大変遅れてしまって申し訳ございませんでした。</p> <p>本日は、それぞれの委員の皆様、大変お忙しい中、龍ヶ崎市最上位計画策定審議会に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。日頃から市政全般にわたりまして、皆様方におかれましては、様々な形で御理解、御協力を賜っておりますことをこの場をお借りいたしまして、お礼申し上げます。</p> <p>さて、(仮称)第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランにつきましては、前回の審議会で素案(たたき台)をお示しをし、御議論いただいたところであります。その後、市内6か所のコミュニティーセンターなどで市民懇談会を開催いたしました。市民の皆さんから素案に対する御意見のほか、市政全般にわたる御意見、御要望を頂いたところでございます。</p> <p>本日はこれまでに頂いた御意見を踏まえて作成した、(仮称)第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン(案)について御議論いただき、次のステップであるパブリックコメントに進めていければと考えております。本プランが市民とともに目標を共有し、実践していくための中身の濃い実のある計画となるよう、より磨きをかけて参りたいと考えておりますので、委員の皆様方におかれましては、それぞれの視点から忌憚のない御意見を頂きますようお願い申し上げます。冒頭に当たりましての挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>続きまして、苦瀬会長から御挨拶を賜りたいと思います。</p>
苦瀬会長	<p>苦瀬でございます。</p> <p>本日はお忙しい中、この審議会に御出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>本日の会議は、今、市長からもお話がありましたように第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランの案について、御議論いただくことになっております。今回提案されております計画案は、パブリックコメントの実施に向けた案ということでございまして、いずれはパブリックコメントを通じて、また更にブラッシュアップされていくものと思っておりますけれども、パブリックコメントに向けて当審議会としても一定の方向性を出せばいいなというふうに思っております。委員の皆様方におかれましては、忌憚のない御意見を頂きますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>

<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。 それでは、ここからの議事進行につきましては、苦瀬会長にお願いいたします。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>それでは、議題に入る前に本日の審議会の議事録署名人を決めたいと思います。今回は田賀委員、石崎委員にお願いしたいと思いますが、いかがでございましょうか。 よろしいでしょうか。 はい。ありがとうございます。それでは御了承いただいたということでよろしくお 願い申し上げます。 それでは議題に入りたいと思います。本日の議題は、（仮称）第2次ふるさと龍ヶ 崎戦略プラン案でございます。これにつきましては、前回の会議では素案（たたき 台）について皆様方に御協議をいただいたところでございますが、本日は、それを基 にパブリックコメントの実施に向けた案としてまとめたということでございます。そ れを御理解の上で御協議いただければありがたいと思います。 まずは、これにつきまして事務局より御説明をお願い申し上げます。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは説明をさせていただきます。 （仮称）第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランにつきましては、4月下旬の審議会にお きまして、素案（たたき台）を示しまして、御審議をいただいたところです。 また、6月上旬から中旬にかけて、市内6か所のコミュニティセンターなどで 市民懇談会を開催し、素案について市民の皆さんから御意見を頂いたところです。 なお、本日の配布になってしましまして申し訳ありませんが、参考資料として懇談 会の議事録を配布させていただきましたので、御覧いただければと思います。 それらの経緯を踏まえまして、前回の素案の方を修正するとともに、前回検討中と なっておりました、土地利用方針や、財政収支見通し、さらには、数値目標及びK P Iの数値などについて加筆を行いまして、（仮称）第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン （案）という形で取りまとめたところです。 それでは、内容の説明に入りますが、前回の素案から加筆修正した部分を中心に御 説明をさせていただきます。事前に配布をさせていただきました、（仮称）第2次ふ るさと龍ヶ崎戦略プラン（案）という資料の方を御覧いただきたいと思います。 まず、2ページを御覧ください。本プランの位置付けについて追記しております。 本プランにつきましては、現行のふるさと龍ヶ崎戦略プランと行政改革大綱の検証を 行いまして、その結果を反映させるとともに、まち・ひと・しごと創生総合戦略につ いては、地方創生の柱として、教育大綱については教育部門の柱として包括する、本 市の最上位計画と位置付けております。 続いて、10ページを御覧ください。ここでは素案の段階では検討中としておりま した、土地利用方針について記載を行っております。本プランにおける土地利用方針 につきましては、将来ビジョンという位置付けの中で、長期的な視点によりまして、 2040年をめどとした土地利用の基本方針を示すこととしております。 本市においては、今後、人口減少が進行していくという予測を踏まえた土地利用を 進めていかなければならないと考えておりますが、4つの住宅系市街地にそれぞれ一 定規模の人口があり、日常的な生活を営める環境にあるという本市の現状を考慮しま すと、住宅系市街地を一つに集約し、まち全体をコンパクト化するという事は現実 的ではないことから、本市においては公共施設の縮充の取組と合わせまして、公共交 通等による市街地間のネットワーク性を向上させ、必要な機能を補完し合う多極ネッ</p>

トワーク型コンパクトシティを本市の土地利用の基本方針としたいと考えております。また、必要に応じて立地適正化計画制度を導入するなど、人口減少等に的確に対応していくため、諸制度を適切に運用していくとともに、にぎわいづくりや地域活性化の観点から、業務機能や交流機能を導入していくための新たな土地利用を図っていくこととしております。

続いて、11 ページを御覧ください。ここでは財政計画の整合ということで、財政収支見通しなどを示しております。こちらのグラフなどでお示ししているとおり、平成 29 年度からの 5 年間においては、毎年度、形式収支は黒字が続く見通しとなっております。その範囲内での施策展開は可能と考えられるとしております。

しかし、歳入面では地方交付税の依存財源に頼る部分が多い状況が見込まれ、また、担税力のある世代の退職や、人口減少による納税義務者の減少が見込まれ、市税等の自主財源の大幅な増収を見込むことは困難であるとしております。

また、歳出面では、臨時財政対策債などによる公債費負担の高どまりや社会保障関係費の増加等の影響により、義務的、固定的な経費に係る財政需要の増加が見込まれ、財政構造の硬直化が懸念されることから、今後も財政健全化の取組を確実に推進していくことが不可欠としております。

続いて、12 ページを御覧ください。(2)において、本プランの遂行に向けて、財政健全化の取組をさらに進めながら、財源を確保していくことと、事業の実施に当たっては最小の経費で最大の効果を上げていくための取組を進めることとしております。また、(3)において、本プランの遂行に当たっては、毎年度、財政収支見通しに照らして充当可能財源を推計し、それを踏まえた事業予算規模を想定の上、アクションプランを策定することとしており、また、財政収支見通しはアクションプランの策定に合わせて、毎年度ローリングすることで、その制度を維持するなど、中期的な財政計画と事業計画を連動させることで、財政の健全化に資するとともに、本プランの実効性を高めることとしております。

続いて、13 ページを御覧ください。こちらに記載しております、目指していくまちの姿につきましては、特に変更ございませんが、前回の素案の段階においては、この目指していくまちの姿の説明の次に 4 つの重点施策を掲げておりました。体系上ここに記載することでその位置付けが分かりにくくなっておりましたので、記載を削除しております。

また、ここでにぎわいと教育に関するコンセプトを掲げておりましたが、計画の中での位置付けが曖昧で分かりにくくなっておりましたことから、こちらも記載を削除しております。

続いて、14 ページを御覧ください。素案の段階では、ここは重点戦略のみの記載となっておりましたが、重点戦略と重点目標についての記載としております。目指していくまちの姿の実現に向けて 5 つの重点戦略を定め、その重点戦略に沿って 16 ページの体系図にもございますが、13 項目の基本目標を定めることとしております。そして、その基本目標の中でも、より重点的、優先的に取り組むものを重点目標としております。

前回の素案では重点施策としておりましたが、基本目標ごとに定める施策と言葉が重複しておりましたことから、重点目標に修正し、15 ページの方にその内容を記載したところです。

また、重点目標については、4 つの日本一を掲げておりますが、素案の段階では目

標の名称として、それぞれ日本一を目指したまちづくり、としておりましたが、目指したまちづくりの部分を削除しまして、それぞれ日本一のまちを目指すということで他の基本目標と差別化を図っております。

続いて、16 ページをお願いいたします。

申し訳ありませんが、ここで資料の訂正をお願いいたします。このページの一番上の中央付近のところ、青い枠で囲んである重点目標という記載ですが、こちらは重点戦略となりますので、訂正をお願いいたします。申し訳ありません。

こちらの体系図につきましても素案の方から修正を図っております。まず、体系図の一番右の個別施策ですが、素案では基本施策としておりましたが、内容としては一つ一つの個別の施策でありますので、個別施策という表記に修正をしております。

また、素案では個別施策の各項目の記載は省略しておりましたが、全て表記をいたしまして、全体像が分かるような形で修正をしております。

また、左側の文章の部分ですが、数値目標やK P Iの設定に関する説明が素案では不足しておりましたので、追記しております。

本プランにおいては、それぞれの基本目標ごとに5年後の数値目標を設定することとしております。この数値目標は、原則として個別施策ごとの結果ではなく、それらの結果により、市民などにもたらされた効果などを検証する指標とし、本プランの期間内に達成を目指すこととしております。

また、各個別施策ごとに重要業績評価指標、K P Iを設定することとしております。このK P Iにつきましては、原則として、具体的な施策を実行した場合の直接的な効果や進捗状況を検証する指標とし、本プランの期間内に複数回の検証を行い、P D C Aサイクルによる改善や、毎年度策定するアクションプランへの反映を図ることとしております。

続いて、17 ページを御覧ください。素案の段階では、各基本目標の数値目標と個別施策のK P Iについて指標名の設定まで行っていたところですが、今回、担当課と協議調整を行いまして、指標そのものの一部見直しやベース値、目標値の数値の設定などを行ったところです。そのうち主なものにつきまして、御説明をさせていただきます。

17 ページの基本目標1、子育て環境日本一の数値目標につきましては、子育て環境の整備や、各ライフステージにおける支援などの効果を計る指標として、合計特殊出生率の向上や子育てしやすいまちであると感じる市民の割合の増加を目標としております。

同じく、17 ページの個別施策(1)子供と住みたい龍ヶ崎の実現のK P Iですが、保育所の待機児童数及び学童保育ルームの待機児童数について、現状ゼロとなっているものを引き続き維持していくという目標となっております。

続いて、19 ページを御覧ください。基本目標2、住んでみたいと感じるまちづくりの数値目標については、都心に通えるまちづくりをはじめとした移住定住促進に向けた取組の効果を計る指標として、人口減少の抑制や純移動数の増加を目標としております。

続いて、20 ページをお願いいたします。個別施策(1)、選ばれるまちづくりによる移住・定住の促進においては、都心に通えるまちづくりの推進ということで、市内交通網の充実などによりまして、バスの利用者数や、公共交通機関の利便性に対する市民の満足度を向上させることを目標としております。

続きまして、23 ページをお願いいたします。基本目標3、人口減少社会に対応したまちづくりについては、個別施策におきまして、都市拠点の形成により、にぎわいを創出していくとともに、公共施設の縮充と多極ネットワーク型コンパクトシティを推進していくものですが、それらの取組の効果を計る指標として、住み心地の良さに関する市民の満足度の向上を目標としております。

続いて、25 ページをお願いいたします。基本目標4、龍の子の生きる力を育むまちづくりの数値目標については、子どもたちの生きる力を育む義務教育環境の向上に向けた取組の効果を計る指標として、小中学校の教育内容や施設に対する市民の満足度と将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合の増加を目標としております。

続いて、26 ページをお願いいたします。個別施策(1)、知・徳・体のバランスのとれた教育の推進については、確かな学力、豊かな心、健康な体の育成に関するKPIをそれぞれ設定しておりますが、例えば、確かな学力に関しては、全国学力調査の結果の向上、健康な体に関しては、体力テストの結果の向上などを目標としております。

次に、個別施策(2) 自主性や社会性を育むための教育環境の整備のKPIにつきましては、小中一貫教育やシチズンシップ教育などの推進によりまして、児童生徒の自尊心や地域社会への関心度などを向上させることを目標としております。

続いて、29 ページを御覧ください。基本目標5、子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくりの数値目標については、子供の健やかな成長と自立心の向上に向けた取組の効果を計る指標として、若者が健全に育つ環境に対する市民の満足度や、未就学児への教育内容、施設に対する市民の満足度の増加を目標としております。

次に、個別施策(1)、家庭の教育力の向上のKPIにつきましては、家庭教育を充実させていくための子育てに関するセミナーの参加者数の増加のほか、家庭における生活習慣や学習状況の改善等を目標としております。

続いて、30 ページを御覧ください。個別施策(3)、子どもが健全に育つ環境の整備のKPIについては、放課後や土曜日の子どもの居場所づくりや学習支援を充実させていくため、学童保育ルームの待機児童数ゼロを維持していくことや、放課後や土曜日に実施するアフタースクール、サタデースクールの拡充を目標としております。

続いて、32 ページを御覧ください。基本目標6、生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくりの数値目標ですが、こちらは生涯学習、文化スポーツに関する環境整備の取組の効果を計る指標として、生きがいがづくりや趣味、文化芸術、スポーツレクリエーションなどに親しめる機会等に対する市民の満足度の向上を目標としております。

続いて、33 ページをお願いいたします。個別施策(2)、文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実においては、文化財や市民遺産の指定や認定を推進していくとともに、そうした歴史的資源などの活用を図っていくため、指定文化財又は市民遺産等を活用したイベント件数の増加を目標としております。

続いて、35 ページを御覧ください。基本目標7の市民活動日本一の数値目標ですが、市民活動の活性化や協働のまちづくりに向けた取組の効果を計る指標として、市民活動への支援や参加できる機会に対する市民の満足度の向上を目標としております。

続いて、36 ページをお願いいたします。個別施策(2)、自主的で活発な市民活動の促進のKPIについては、ボランティア実施団体とそれに協力する団体の橋渡しを行うまちづくりつなぐネットの実施回数のほか、市民活動に参加した市民が交付

受けたまちづくりポイントシールを物品や公共施設の利用券に交換した枚数や、市民活動団体に寄附した枚数を増加させることを目標としまして、それぞれの制度を推進していくこととしております。

続いて、38 ページをお願いいたします。基本目標 8、地域の潜在力を生かした仕事とにぎわいを創出するまちづくりの数値目標については、地域経済の活性化と雇用創出のほか、にぎわいの創出に向けた取組の効果を計る指標として、ハローワーク龍ヶ崎の紹介による就職者数と 65 歳以上の就業者数の増加を目標としております。

個別施策（1）、産業、金融、行政の連携による地域産業の維持・強化の K P I につきましては、39 ページの方に K P I の表が記載されていますが、企業立地の促進に向けて、企業立地奨励金による支援企業数や、それに伴う新規雇用人数の増加を目標としております。

続いて、40 ページをお願いいたします。個別施策（3）、認知度向上、地域ブランド確立等による付加価値の向上の K P I については、流通経済大学等との連携によりまして、体験型産業観光プログラムを開発することを目標としております。

また、ブランドの確立に関しましては、観光物産協会が衛生面等をはじめとした生産体制などに関して、優れた企業等をブランド認定した件数や、市が策定したブランド認定制度に基づき、龍ヶ崎ブランドとして価値のある特産品や地域資源を認定した件数を目標値として設定をしております。

続いて、41 ページをお願いいたします。基本目標 9、大学と連携した特色あるまちづくりの数値目標については、市と大学の連携を充実させていく取組の効果を計る指標として、龍・流連携事業や大学のイベント等に参加した市民の割合の増加を目標としております。

続いて、42 ページをお願いいたします。個別施策（2）、大学（学生）・市民の交流促進の K P I については、市民大学講座の参加者数や大学運動部公式戦応援ツアーの参加者数の増加等を目標としております。

続いて、43 ページをお願いいたします。基本目標 10、防災・減災日本一の数値目標ですが、自助、共助、公助による防災・減災の取組に対する指標として、自主防災組織の活動カバー率を 100 % とする目標としております。

続いて、44 ページをお願いいたします。個別施策（1）、防災基盤の充実の K P I については、消火栓などの消防水利数の増加や、災害時のトイレ対策として避難所仮設トイレシステムの整備を目標とするほか、住宅の耐震化率の向上を目標としております。

また、個別施策（2）、消防団を中核とした地域防災体制の充実の K P I については、各地域ごとに地区防災計画を策定することや、防災訓練の参加者数、消防団員数、防災士数の増加を目標としております。

次に、45 ページをお願いいたします。基本目標 11、地域がつながる、安全・安心なまちづくりの数値目標については、地域の人と人とのつながりを生かした地域づくりへの取組の効果を計る指標として、地域の人々がふれあい、交流できる機会・内容への市民の満足度の向上を数値目標としております。個別施策（1）、市内公共交通網の充実の K P I については、高齢者向け市内公共交通共通定期券の売上額の増加を目標とし、高齢者が市内各地域へ移動しやすい公共交通網の充実を図ることとしております。

続いて、46 ページをお願いいたします。個別施策（4）、空き家等対策の推進の

	<p>K P Iについては、市が適正管理を促した空き家等のうち、改善された空き家等の割合の増加を目標としており、実質的には、空き家対策がスタートした平成 27 年度からの通算での改善率を目標としております。</p> <p>次に、47 ページをお願いいたします。基本目標 12 のスポーツ健幸日本一の数値目標については、スポーツ・運動を通じた健康づくりや高齢者の健康力の向上に向けた取組の効果を計る指標として、週 1 回以上運動やスポーツを行う人の割合の増加、スポーツやレクリエーションに親しむ機会・施設に対する市民の満足度の向上、健康診査などの受けやすさや健康づくりのしやすさに対する市民の満足度の向上を目標としております。</p> <p>次に、48 ページを御覧ください。個別施策（1）、スポーツ・運動を通じた健康づくりの推進のK P Iについては、誰もが気軽に参加できるニュースポーツの参加者数などの増加を目標としたほか、健康ウォーキングやシルバーリハビリ体操などの参加者数の増加などを目標としております。</p> <p>また、個別施策（2）、高齢者の「健幸」力の向上のK P Iについては、特定健康診査受診率の向上や、要介護認定率を平成 33 年度の推計値 13.4 %よりも低くするという目標設定をしております。</p> <p>次に、49 ページを御覧ください。基本目標 13、健全で効率的な行財政運営の推進の数値目標については、行政改革の全体的な取組に対する効果を見る指標として、市役所の仕事ぶりに対する市民の満足度の向上を目標としております。個別施策（1）、人員の確保と人材育成の強化のK P Iについては、人材育成の取組の一つとして、職員研修の受講者数の増加や適切な人員確保・配置などによる時間外勤務時間数の削減を目標としております。</p> <p>最後に、50 ページを御覧ください。個別施策（2）、健全な財政運営の推進のK P Iについては、市税の収納率の向上や、条例に基づく財政運営の目標の達成を目標としております。</p> <p>また、個別施策（3）、公共施設等の効率的な運営においては、指定管理者導入施設数の増加や、専門的定型業務に係る行政サービスの民間委託の導入を目標としております。</p> <p>以上が、前回の素案から加筆・修正などを行いました、（仮称）第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（案）の内容となります。説明は以上です。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいまより、今の戦略プラン案の御説明につきまして、皆様方から御意見を賜りたいと思います。よろしくをお願いいたします。</p> <p>どなたからでも結構でございますが、いかがでございましょうか。</p>
<p>谷口委員</p>	<p>何点かあるんですが、大きい話から先に。</p> <p>質問というか確認なんですけど、ベース値が平成 28 年度で目標値が平成 33 年度ということで、目標を考えておられるということなんですけども、アンケートみたいなものをやられるのは毎年やられるという理解でよろしいのか、それとも、いきなり平成 33 年度にやられるという理解なのか。毎年あるとすると、毎年やられるとうるさいなって言われる感じかもしれないので、その辺りはどういうプランをされてるのかというのが一つです。</p> <p>あともう一つは、他の市町村でパブコメを掛けるとですね、やっぱり市民の方から</p>

	<p>用語が難しいという意見がかなり出てきて、例えばKPIとか、そういう行政用語をそのまま使っていて、ちょっと気になるのですが、よろしいでしょうかということです。</p> <p>個々の部分に関しては、また後でちょっとお時間いただいて、確認させていただければと。</p>
苦瀬会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>全体の話として、今、2点御質問がございました。いかがでございましょうか。</p>
事務局	<p>アンケートについてですけれども、アンケートについては、まちづくり市民アンケートというものを2年に1回やっております、そのまま継続していきたいと考えております。</p> <p>また、KPIなど、難しい用語があります。それにつきましては、ここにはありませんが、最終的には用語解説など、説明を付けたいと考えております。</p>
久保田氏	<p>確認なのですが、先ほどのベース値で、数値目標で挙げているのは28年で、KPIの方が27年でベース値を挙げてるんですが、変えてるのは何かあるんでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。数値目標の方はですね、主に市民アンケートの結果を使っている部分が多くありまして、市民アンケートにつきましては平成28年度に実施しておりますので、数値目標については平成28年度がベースとなっております。それ以外のKPIにつきましては、おおむね平成27年度の数値を採用しております。年度が異なるものにつきましては、括弧書きでそれぞれの年度の表記をしているところでございます。</p>
苦瀬会長	<p>谷口先生の2番目の話に関連してちょっと確認したいのですが、16ページでA3になっているわけですが、要するに用語が難しくないと私も感じてます。</p> <p>例えば、重点戦略と基本目標があって、個別施策なんですけど、これ戦略と目標と施策じゃだめなのでしょうか。</p> <p>例えば、目標がいっぱいあって、その中に重点目標というところすごく分かるんですけど、すると、目標と基本目標と重点目標と、目標って3つあったのかなとかね、何かそういう迷いが出てしまうのかなというのはすごく私も心配なんです。</p> <p>それから、後で事務局でお考えいただければ結構です。御返事があるというわけではなくて、パブリックコメントを通じて、いずれいろんな意見が出てくるでしょうから、そのときに加味していただければありがたいという意味ですけど。</p> <p>16ページの説明で、この数値目標は市民などにもたらした効果などをなどと書いてあるのですが、この辺ももうちょっと関係を何かうまく説明できないのかなという気がちょっとしてるんですよね。なぜかという、目標は目標で書いてあって、更にKPIもあるだけけれども、KPIがうまくいったからといって目標を必ずクリアしてるかって、それも分からないわけですよね。目標をクリアしてるからといって、KPIがうまくいっているかというのも分からないときがあるわけです。だけど、こういうふうに見てしまうと、何となくKPIをやっていると目標をそのままクリアできそうな雰囲気を読んでしまう可能性があるんだと思うんです。</p> <p>だから、例えば、目標は目標で数値目標として、出生率を目標としてこのように掲げているんだよ、その中で行政としてやるものはこういうことがあるので、少なくともこういうことやっていかないと、基本目標に対してプラスの方向にいかないよねって、そういう格好だと思えますよね。</p>

	<p>数値の因果関係は多分ないんだと思うんですけど、並べてしまうと、ちょっとその辺で誤解とか錯覚をされる方が出てこないかっていう、そういう心配をちょっとしたので、その辺の説明を 16 ページ辺りでもうちょっと工夫がいるかもしれないなと思いました。</p> <p>これは今お答えいただくという形じゃなくて、いずれいろいろな議論を通じた結果、やっていただければ、考えていただければありがたいと思います。</p> <p>他にないでしょうか。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>文言で恐縮なんですけど、策定の趣旨のところなんですけど、「ところで、前プランは」ということで、それを加筆していくんだよという趣旨はよく分かるんですけど、その前段のところは、第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランというのはこういう形で策定するんだよということをおっしゃって、「ところで、前プランは」ということで、おっしゃりたいのは分かるんですけど、私の個人的な感覚かもしれませんが、唐突な印象がありますので、何かこの辺をうまくかみ合わせてもらったほうがいいと感じました。</p>
<p>田賀委員</p>	<p>目標の中で非常に大きなことを挙げていて、例えば日本一というので何項目かあったりするんですけども、それに対しての評価をK P I で具体的に数値化して評価しようというのが、何となく大きなテーマを挙げている割には小さなことで評価していいのかなという感じがするところがあります。数値化して評価できにくいので、こういう数値を使っているというのは分かるんですけども、例えばですね、教育に関して、知・徳・体のバランスのとれた教育の推進というテーマを挙げているんですけど、この知・徳・体の評価というのはものすごく大変だなというふうに思うんですよね。</p> <p>確かな学力、豊かな心、健康な体と言っているんだけど、それに合っている指標なのかどうかというのが、これは他のところもそうなんだけれども、数値化できにくいことがいっぱい目標の中にあって、それを何とか評価しようということで努力してK P I の表現をして、アンケートを取るといようなことで、市民がどう感じてるかという感覚論で評価をせざるを得ないという、そのところの目標を、狙ってるところに対してどこまでできたのかということの評価の仕方が、何となく大きなことを目標にしている割には、スタンドプレーで評価が上がってしまうみたいな部分があるような気がしてならないというか。</p> <p>かといって、その評価のできないことがいっぱいあるのかなという気がするんですけど、この辺のところ市民がどう受けとめるか、評価の仕方に対して、どう受けとめるかというのがちょっと難しいなと感じた次第です。意見ですけれども。</p> <p>例えば、26 ページの3で個別施策と重要業績評価指標のK P I と書いてあって、(1) 知・徳・体のバランスのとれた教育、例えば教育について記載されているのもそうですけれども、その他でも感じられる。29 ページの基本目標5子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくりと書いてあるんですけども、この辺のところでも、例えば家庭教育の充実というようなことで書かれていますが、これはすごく大変なことで、今、共稼ぎであったり、母子家庭であったり、低所得者、ワーキングプア層があったりして、子どもを親がなかなか面倒見れなくて学校に預けきりで、親からの教育を受けていないというか、しつけができていない子どもたちが増えてるとか、こういういろいろな問題を抱えていて、生涯にわたる人格形成と幼児教育の重要性に鑑みと書かれていて、これは重要なことだと思うんですけども、それに対しての施策と</p>

	<p>して、毎年何をやるか、アクションプランを予算と絡めて作っていくんだと思うんですが、それに関して、評価する数値目標として出てくる項目が、これで本当にいいのだろうか、これで評価していいのかなという疑問を単純に持つんですけども。</p> <p>大きく掲げてるのをこれだけで評価して、それで達成したんですよと言えるのかどうかというのが、実は疑問だなと感じた次第です。</p>
苦瀬会長	<p>よろしいですか。</p> <p>私が意見を申し上げていいかどうか分からないですけど、私も気になってるのは、先にちょっと申し上げましたけれども、数値目標を掲げ、行政として、この龍ヶ崎市として、こういうふうにしていきたいというのは、よく分かります。</p> <p>また、行政として、例えば、子育てふれあいセミナーの人間を増やしたいことも分かります。けどそれをやれば、必ず満足度が上がっていくのかというと、必ずしもそうなるかどうか分からない。いろいろなことのうちの行政がやる分はここだし、いや実は、市民がちゃんとやらなきゃいけないことがあるかもしれないし、親だって頑張ろうよとか、おじいちゃんおばあちゃんも頑張ろうよみたいな、そういうのだけであるかもしれないわけで、だから、何から何までKPIというか、その個別の施策をやっているからこれでいきますよっていうふうに進んでしまうと、ちょっと勘違いが出てくる可能性があると思うんですけどね。</p> <p>そのことをむしろ、16ページの辺りに書いておいたほうがいいのではないかなと思うんですけどね。そうしないと、市がこんなに頑張っているんだけど、満足している割合が増えていないじゃないかと、何やってんだとまた怒られたりするの辛いわけですね。だから、そんな気がちょっと私はしますけどね。</p>
石崎委員	<p>今の議論とほとんど重複するようになるところになるかなと思うんですが、例えば、43ページの防災・減災日本一というのが重点目標の一つに入っているんですが、この中の基本的方向性の中で、自助、共助、公助のバランスを取っていくとなっていて、具体的にいろいろなことを施策として打っていくということは、非常に重要なポイントだろうというふうに思っているんですけどね。ただ、これがKPIというところには、何も結びついていないというところになるんですよ。これは、なかなか難しいんだろうと思うんですけどね。</p> <p>でも、この重要な項目は、必ずしも定量的なところにばかりあまり視点を置かずに、定性的なところでも非常に重要なアクションがあるんだろうと思うんですけどね。ですから、定量の方があまりにも表面化すると、ここに先ほどから苦瀬会長も言われているとおり、独り歩きしてしまうというところにもつながるので、かといって、その評価の仕方っていうのもいろいろあると思いますので、この定量化っていうところは、全体の取組の中のほんの一部の指標であるという捉え方が分かりやすいのではないかなという気はしてるんですけどね。そういうことをこのプランだけ見ると、定量的なところが、あたかもこう目標値になっているように誤解をしかねないところがありますので、この表現を少し改めたほうがいいのかなと思います。</p> <p>せっかくいろいろな方向性を宣言してるにもかかわらず、ここにだけちょっと引張られ過ぎるというところに結びついてしまうのもったいないなという気はしてるんですけどね。これは、今議論されている全般に通ずるところだと思うんですけどね。</p>
谷口委員	<p>ちょっと気になったことを何点か申し上げたいと思います。</p> <p>10ページの土地利用方針で、縮充という概念で進められるということは結構なこ</p>

	<p>とではないかなと思います。また、「公共交通等による市街地間のネットワーク性の向上を図ることで、必要な機能を補完し合い」となっていて、これも非常に大事だと思うのですが、例えば、これに対応する目標とか、KPIとかというのはどうなるのかなと思ったときに、あまり対応するものがないというような感じがしています。</p> <p>恐らくですね、事務局側としては、コミュニティバスの乗車人数を上げるというようなことを書かれているんですが、それはちょっと趣旨が違わないかなと思っていて、コミュニティバスというのは、本来税金でサポートされるものなので、極論を言えば数を減らしていった方が本当はよくて、民間のバスなどのサービスがしっかりあった方が本当はいいと思うんですよね。要するに、コミュニティバスの乗降客数が増えていくということは、民間の業務を取ってしまっているという数字に見えるのですが、そういうことも含めて、ネットワーク性の向上を図るということをごどのように支えていこうと考えておられるのかなというのが、土地利用方針の中の骨の部分なのですが、個別施策の中で今ひとつ見えなかったというところが1点です。</p> <p>あと、何点か言っていきますが、次の11ページですが、このグラフを見たときにですね、税金が一举に平成29年度から30年度に倍になるのかと思ったのですが、これは、グラフをゼロから作らないとだめなんです。</p> <p>このようにする場合は、学生に言うように申し訳ないんですが、ゼロの上に波線を引いて、縦軸が切れているというような表現にされないといけないと思います。</p> <p>質問としてはですね、平成29年度から30年度は、何で増えているのでしょうかというのが素朴な疑問で、人口が減っていくのでだんだん減っていくという構造は分かるのですが、一瞬だけでも増えているというのはどういう仕組みなんだろうかと。そこを見ると何かこれからのヒントがあるのかなと思ったというのが2点目です。</p> <p>あと3点目なんですが、指標がいろいろ出てくるのですが、最初からかなり頑張っているものがあるような気がするんです。ちょっと極端な例かもしれませんが、27ページの表で、スクールメールの登録率は、既に100%を超えている。目標は、100%以上となっていて、何となく目標にしなくてもいいのではないかなと思ったりですね。</p> <p>あと、自分の良いところがあると答えた児童の割合が何%以上ないといけないとかですね。控え目な子どもがいてもいいのではないかなとか思ったりもするんですが。</p> <p>あと、25ページの将来の夢や目標を持っていると答えた児童生徒の割合というのは、これは龍ヶ崎市にあまり責任がなくて、日本の国自体が夢を持てる国かどうかですね。何かそういうことの方が大きなファクターではないかなとか、ちょっと細かく見るといろいろ気になってしまうのですが、本当に右肩上がりにしないといけないのかどうかというのは、ちょっと考えられた方がいい指標もあるのかなと思いました。3点目は、少し雑駁な意見で申し訳ないのですが、以上です。</p>
<p>副市長</p>	<p>1点目の公共交通の件でございますけど、確かにおっしゃるとおりです。確かに、この地域公共交通、大変重要な役割がありますけれども、地域公共交通がやはりある程度の本数を確保するのが目標だと思いますし、そのためにはですね、やはりこれを行政と交通事業者だけで支えていくことは不可能に近いところもありまして、これについては住民の理解とか協力、参画も必要でありますし、収益の柱となるような再編整備なども、これから考えていかなければならないかなと思っています。</p> <p>それとですね、商業施設とか観光などの多くの人々が集まるエリアに関して、利便性の高いような公共交通の再編整備も必要だと思います。そういった意味で地域住民</p>

	<p>の方々と一体となって、地域公共交通をもう少し押し上げていくために、収益を上げて、本数を増やして利便性を高めていくという、そういうことが目標であって、単なるコミュニティバスの乗客数だけではないと私も思っております。</p> <p>先ほど石崎委員もおっしゃったように、戦略についてはこのような状態にしたいと、そういうものをきちんと記述して説明できればいいかなと、何をもって日本一なのかということも含めてですね、そのような形でちょっと工夫してみたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
事務局	<p>11 ページのところですが、グラフの表記の問題は検討させていただきますことにしまして、なぜ、29 年度から 30 年度に大きく上がるかというようなことでよろしいですね。</p> <p>こちらは税収ではなく、歳入歳出総額でございますので、現在のところ、龍ヶ崎市のアクションプランにおきましては、30 年度に一定規模の事業が予定されているというようなことで、事業に伴いまして、国庫補助金でありますとか、地方債が歳入されます。龍ヶ崎市では、31 年度の開業を目指しまして、30 年度において道の駅を建設する予定となっておりますので、そうすると事業費に対応する補助金やら地方債など、そういったものが入りますので、予算規模、決算規模としては膨らむというような形になります。</p>
苦瀬会長	<p>関連してなんですが、私も気になっているのは、土地利用方針で今日いろいろ御説明がありました、そのことと 14 ページ以降の戦略や目標というのは、何か関係あるのでしょうか。</p> <p>コンパクトシティを目指します。だから、戦略では、ここに関係してますみたいな話がありますか。</p> <p>14 ページから重点戦略と重点目標が出てきて、13 ページでは、まちのキャッチフレーズ「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎」なんですけれども、その前に土地利用とか財政の話が出てきますよね。</p> <p>その話が、まちのキャッチフレーズや戦略の中にあまり出てこないように見えるのですが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>例えばですが、10 ページで土地利用方針として、コンパクトシティの話に触れております。それに対しまして、23 ページの重点戦略 1 の基本目標 3 「人口減少に対応したまちづくり」の基本的方向性の中で、縮充の取組ですとか、コンパクトシティ化の推進などに触れております。</p> <p>続いて、11 ページから財政収支見通しなどを 2 ページほど記述しております。そして、12 ページにおいて、最終的には本プランを達成するために、この収支見通しを毎年度ローリングしながらアクションプランを作成していくというようなことを述べておまして、本プランの実行を財政的に担保するというようなことでございます。これに関連して、50 ページにおいて、健全な財政運営の推進ということで、こちらで財政的担保を取っていくというようなことでございます。</p>
苦瀬会長	<p>おそらく、市の皆さんは、いろいろお考えになって、そのようになっているのかもしれないですが、これから、パブリックコメントを皆さん方に頂くので、だんだんブラッシュアップされていくと思えますけれども、分かりづらいところもあるかもしれないと、ちょっと気になっています。</p> <p>例えば、コンパクトシティをやるんだよと言って、未利用地の市有地を民間活用す</p>

	<p>ればするほど、コンパクトじゃなくて、ばらばらっと開発するんじゃないかとか、その辺の因果関係は、うまく整理された方が良いかもしれないです。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
大山委員	<p>今の意見と同じになってしまうのかもしれないのですが、土地利用方針や財政計画との整合というのが前に出て、それから目指していくまちの姿という順番を見たときに、アクションプラン若しくは目標など、戦略その他を作る際の足かせとしてこの2つがあるんだというようなイメージを持ってしまうのではないかなというのを感じましたので、特に、この2つについては表記の場所、順番等について、もうちょっと検討された方がよろしいのかなと感じました。</p>
事務局	<p>現行のふるさと龍ヶ崎戦略プランでは、重点戦略と基本目標の後に土地利用方針ですとか将来人口、財政推計を持ってきていますが、今回は、そういったことを全部整理した上で計画の中に位置付けるというようなイメージで考えましたが、御意見を踏まえまして検討させていただきます。</p>
苦瀬会長	<p>他にいかがでしょうか。</p> <p>17 ページ以降のそれぞれの戦略とかK P I の1 個 1 個の数値でも、これはどういうことだろうかということで、御質問がございましたら、ぜひお願いをいたします。</p> <p>いろいろと御意見を出していただければいただくほど、事務局の皆様方はパブリックコメントに向けて、いろいろと準備ができると思いますので、よろしく願いいたします。</p>
谷口委員	<p>勉強不足で申し訳ないのですが、道の駅は、市のどの辺りに作る予定で、それが、今の土地利用方針とリンクして考えられているのか、考えられていないのかという辺りを教えていただければと。</p>
事務局	<p>龍ヶ崎市の道の駅は、国道6号の牛久沼沿いを予定しております。</p>
谷口委員	<p>では、通過交通対象みたいな感じですね。</p>
事務局	<p>はい、一義的には茨城県のゲートウェイ機能も兼ね備えた、龍ヶ崎市の情報発信の場というようなイメージを持っております。</p> <p>土地利用方針との関連では、自然地の牛久沼の景観等を活かした道の駅にして参りたいと考えております。</p>
谷口委員	<p>それは、K P I に連動する部分というのはないんですか。</p>
事務局	<p>交流人口の増加につなげていきたいと考えております。</p>
谷口委員	<p>交流人口の増加は、K P I に入っていたでしょうか。</p>
事務局	<p>交流人口の増加から龍ヶ崎を知っていただきまして、最終的には、定住人口の増加に結びつけていくというのが最終目標と考えております。</p>
谷口委員	<p>間がちょっと飛んでいるような気がしますが、プランとして全然悪くないと思いますので、戦略の中のどこかに入ってもいいのかなと思いますけど。</p>
事務局	<p>戦略の方はですね、38 ページの重点戦略3の地域活性化という所に入るかと思えます。</p>

谷口委員	40 ページの認知度向上辺りにつながる話ですよね。恐らく。
事務局	はい。その辺につながって、38 ページから 40 ページ辺りが、関連してくるところです。
谷口委員	<p>今の議論を通じても思ったのですが、指標がですね、全体的に内向きの感じがして、例えば、地域交流をする場合も、その中の人の指標が結構多いような感じがするんですね。</p> <p>例えば、小学生が地域の中の活動にどれだけ参加したかというような指標はあるんですけども、外に出て行って交流するというのも多分あるはずだと思うんですけども。</p> <p>その道の駅の話も、国道 6 号で茨城に入ってこられた方が龍ヶ崎のことを知っていただくという意味では非常にいいと思うんですが、それは何か定住者の数っていうものに持っていくよりは、知ってもらって、活力の向上につながるというような話に直結すると思うので、そういう観点から見ていただくとですね、何かもっと生きた指標というか、外とのつながりに関連する指標というのも他にあるのではないかなと思ったんですけどね。</p>
苦瀬会長	<p>ありがとうございます。御意見ということでよろしいですかね。</p> <p>多分、道の駅を訪れた人の増加率が何割とか、それができたらいいんだけど、まだ道の駅ができていないのでなかなか難しいかも知れないけれど、何となく、もったいないという感じがします。</p> <p>関連して、例えば 43 ページですね。自助、共助、公助のバランスの取れた取組を推進して、防災・減災日本一を目指すんですよね。数値目標としては、自主防災組織の活動カバー率があるのかもしれないけれど、44 ページの指標を見ると、消防団であったり、耐震化率があって、どれが自助でどれが共助でどれが公助だろうかと思ってしまうんですよね。消防団は公助かなと。自助だったら、例えば、1 週間分の食糧を備蓄している世帯は何%だとか。そういうのもあっていいと思います。それから、災害のときには、お隣と一緒に活動しようという町内会が何か所できたとかですね。</p> <p>つまり、基本的な方向性などでいろいろなことが書かれていて、そういうことと、この K P I を見たときに、追いつけないようなところがあるのかなという気がします。私が追いつけないのは私がいけないのですが、市民の皆さん方によるパブリックコメントで期待したいという面も持っています。そういうふうに少し幅広くしたらどうでしょうかというのが私の意見です。</p>
石崎委員	<p>今の御意見に関連してなんですが、私もそのところの詳細の部分がちょっと不足してるかなという感じを持ってまして。それというのは、町内会で見ますと、その共助の部分が決してうまく醸成されていないなという印象持っているんですね。特に、ニュータウンの方は、いろいろな地域の方が集まって住んでおられますので、育ってきた文化が違った方の集合体なんですね。そういったところで、隣 1 件置いてしまってもう誰が住んでいるのか分からないというようなイメージもあるんですね。連絡が取れない、何か火災が起きて、その家に連絡すら取ってあげられないというような。これは、実は個人情報保護法の反面教師のところもあって、そういったところがあって、情報をあまり共有しないという流れも実はあるんです。</p> <p>そういったところに、市が立ち入れるかというのはあるんですが、自助と共助と公</p>

	<p>助というのは、どこまでのエリアを龍ヶ崎としては一線を引いていくのか。共助の部分は、こういうところまでは構築して行ってほしいとか、自助の部分は、先ほど会長がおっしゃられたように、自衛隊が入れない3日分は備蓄してくださいというのをもう少し強く促すとか。そういったところの指標というのが、本来はこのバランスのいいという一線の引き方になるんじゃないかなと。詳細なところで、パブリックコメントに近い話になると思うんですが、出てくると思うんですね。そういったところまで、もう立ち入っていく必要があるんじゃないかなという気はしてるんですね。</p> <p>もう1点ですが、先ほど道の駅の話が出ましたが、道の駅というのは、龍ヶ崎を知っていただく、交流の場という意味では、市民とこの近隣の交流の場ということで、この共助の中に関連してくるんじゃないかなと思ってるんですね。それというのは、共助というのは、普段からどのようにコミュニティを醸成しておくかというのが、起点になるような気がするんですね。コミュニティセンターでの懇談会の会議録を見たところ、龍ヶ崎にしかない道の駅を作り上げて欲しいという要望も出てましてね。道の駅は、従来の感覚だけではなくて、人の駅という感覚も龍ヶ崎のコミュニティを醸成するという意味では、何か施策があっても面白いのではないかなという気がしてるんですけど。</p> <p>これは、参考意見として御検討いただければと思います。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>防災・減災に関してですが、減災という観点からいくと、ライフラインの耐震化ですね。自治体が持っているので言えば、下水道と水道ですか。水道は公営企業ですか。下水道は市ですよ。</p> <p>東京などでは進めているんですけど、スポット的に避難所とか、そういう防災上、集約する施設の整備ですね。水もこの前の東日本のときは、自衛隊が来た場所もございましたし、実際トイレはなかったみたいですけど、今ここでは、ソフト面が地域力ということで述べられてますが、ハード面もいかがかなという意見です。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>他にございますでしょうか。</p> <p>私、今度の熊本の地震も土木学会の物流調査団の団長ということで行って参りましたが、私を感じるの、東日本の地震も熊本の地震も非常に特殊だと思っていて、どうして特殊かという、東日本は900万人ですよ、被災者は。今度の熊本は、200万人弱だと思うんですけど、近畿方面、東海方面、首都直下など、今度来ると想定される大きな地震は、何千万人ですよ。だからスケール感が全然違うので、東日本がうまくいったから大丈夫ということは、私は、絶対にはないと思っています。</p> <p>私は、災害時の医療のことを勉強したことがあるのですが、計算すると、東京に首都直下が来たとしたら、大病院は、大体3日くらいで薬がなくなります。それで、もうそれ以上は補給できません。だから、けが人を治すことすらできないという、それくらいの事態になるので、東日本とか熊本とか中越が大丈夫だから大丈夫だというふうにはならないと思っています。</p> <p>余計なことで、すみません。それを踏まえて、事務局の方でより良いものにブラッシュアップしていただけるんだろうと思います。</p> <p>ほかに何かございますか。よろしいですか。</p> <p>それでは、審議会としての議題はこれで終了しますけれども、事務局の方で何かございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日は、いろいろと御意見を頂きまして、ありがとうございました。本日の御意見</p>

	<p>を踏まえまして、事務局の方で検討させていただくわけですが、できますれば、パブリックコメントの実施の前にもう一度計画案を見ていただきたいと思いますと考えております。</p> <p>そのやり方につきましては、本日のように会議を開催させていただくか、あるいは、皆様の御都合や日程の都合上、計画案を送付させていただいて、個別に意見を伺うというやり方をせざるを得ないかもしれませんが、もう一度見ていただく方向でやりたいと思いますので、その点よろしく願いいたします。</p>
<p>苦瀬会長</p>	<p>事務局からそういう御提案というかお願いでございます。委員の皆様はお忙しいと思いますけれども、ひとつその辺を御了解いただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>これで本日の議題は終了となります。委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。これをもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>
<p>平成 年 月 日</p> <p style="text-align: right;">会 長 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p>	